

皇太子殿下おことば



挨拶に先立ち、本年の度重なる豪雨災害や北海道胆振東部地震により亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、御遺族と被災された方々にお見舞いを申し上げます。被災地の復旧と復興が一日も早く進むことを願っております。

「第33回国民文化祭・おおいた2018」・「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」の開会式に、皆さんと共に出席できることを大変うれしく思います。

大分県は、温暖な気候と海・山などの豊かな自然に恵まれるとともに、宇佐神宮を始め、古くから独特な山岳宗教文化を育み今年開山1300年を迎えた六郷満山、白杵石仏などの歴史的文化遺産や、御嶽神楽・鶴崎踊を始めとした伝統芸能が数多く存在しています。また、約300年にわたった小藩分立の歴史により、それぞれの地域で独自の気風が育ち、それらが互いに取り込み融合し、独自の新しい文化が創りあげられてきました。

この大分の地において、全国各都道府県、さらには海外からも、様々な文化活動に取り組まれている方々を迎え、国民文化祭及び全国障

皇太子殿下

害者芸術・文化祭が開催されることは、誠に意義深いことです。関係者の皆さんが開催のために払われた努力に対し、心から敬意を表します。

今大会は「おおいた大茶会」というテーマの下、子どもからお年寄りまで、また障害のある方もない方も、外国の方も、誰もが参加できる文化の祭典を目指して、大分県内の全市町村と芸術・文化団体の皆さんが一緒になって、地域固有の伝統文化はもとより、現代アートや障害者アートなど多彩な取組が行われると聞いています。また、多くのアーティストや芸術・文化団体の皆さんが、学校や地域、福祉の現場でワークショップを行うなどして、県民の皆さんと共に大会の準備を進めてこられたとも聞いています。

このような取組を通じて、改めて地域の伝統芸能や文化を見つめ直すとともに、地域やジャンル、世代を超えた交流の輪が広がることで芸術文化活動の裾野が広がり、新しい文化が創造されることを期待しています。

「国民文化祭・おおいた2018」・「全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」が大きな成功を収めることを願い、私の挨拶といたします。

主催者あいさつ



挨拶に先立ちまして、本年、地震、台風、豪雨などの相次ぐ自然災害によってお亡くなりになられた方々に、深く哀悼の意を表しますとともに、被災された地域の日も早い復興をお祈り申し上げます。

本日、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」が盛大に開催されますことを、大変喜ばしく思います。

国民文化祭は、国民の皆様が日頃から行っている文化活動を、全国的な規模で発表、共演、交流する日本最大の文化の祭典として、昭和61年から、開催地の文化的な特色を生かして、毎年開催して参りました。

今大会は、「^{だいちゃかい}おおいた大茶会」のテーマの下、本日から51日間、大分県内の全18市町村において「全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」と一体的に開催されます。両大会の一体開催を通じて、あらゆる人々が芸術文化に親しむことのできる共生社会の実現に向け、一層の芸術活動の充実が図られることを期待します。

文部科学大臣

柴山昌彦

さて、2020年には、東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されますが、このオリンピック・パラリンピックをスポーツだけでなく文化の祭典としても成功させたいと考えております。そのためにも、様々な文化資源を活用しながら、伝統文化から現代芸術まで幅広い文化による国づくりをオールジャパンで推進してまいります。

結びに、本大会の開催に当たり格別の御尽力、御協力をいただいた大分県、開催市町村、文化団体をはじめ、関係する多くの皆様に深く感謝申し上げますとともに、大会の成功を心から祈念いたしまして、挨拶といたします。

主催者あいさつ



厚生労働大臣

根本 匠

挨拶に先立ちまして、度重なる豪雨災害や地震などでお亡くなりになられた方々の御冥福を心からお祈りするとともに、御遺族の方々にお悔やみを申し上げ、また、被災された方々にお見舞いを申し上げます。

厚生労働省としても、一日も早い復旧に全力を尽くしてまいります。

本日、皇太子同妃両殿下の御臨席を仰ぎ、「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」が「第33回国民文化祭・おおいた2018」と同時に開催されるに当たり、主催者の一人として、一言御挨拶申し上げます。

全国障害者芸術・文化祭は、芸術文化活動への取組を通じて、障害のある方々が自己を表現し、より一層の自立と社会参加を実現するとともに、国民の障害への理解を深めることを目的として、毎年開催しています。

今回の大会も、昨年に引き続き、国民文化祭と一体的に開催し、障害のある方々もない方々も、ここ大分の地からともに新たな文化を発信いたします。

本大会では、大分県内の全市町村において「障がい者アート事業」が開催されます。障害のあるなしにかかわらず、全ての人がお互いを

尊重しながら、ともに芸術を楽しむ土壤が県内全域で育まれることを大変嬉しく思っています。

大会期間中に、美術作品や舞台作品を発表される方だけでなく、アーティストの御家族や御友人、作品や発表を楽しみに県内外から来場される皆様など、全員が主役となって、「おおいた^{だいちゃかい}大茶会」の傘のもと、一緒に盛り上げていきましょう。

ここ大分での全国障害者芸術・文化祭の開催とともに、今年度、全国12カ所の地域において、障害のある方々の芸術・文化イベントが企画されています。これらのイベントを本大会のサテライトイベントとして位置付け、障害のある方の芸術文化活動を全国的に盛り上げていくこととしています。

また、この取組は、芸術・文化を通じて2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた機運の醸成を図るという大きな使命も担っていると考えています。

結びに、開催に当たり格別の御尽力をいただきました大分県、開催市町村、文化芸術団体をはじめ、関係する多くの方々に深く感謝申し上げますとともに、大会の成功を心から祈念して、私の挨拶といたします。

主催者あいさつ



第33回国民文化祭大分県実行委員会会長
第18回全国障害者芸術・文化祭実行委員会会長
大分県知事

広瀬 勝 貞

挨拶に先立ちまして、今年相次ぎ発生した豪雨、台風そして地震などで亡くなられた方々のご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。

本日ここに、皇太子殿下、同妃殿下の御臨席を仰ぎ、「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」を開催できますことは、大分県民にとり大きな喜びであります。全国からお越しいただいた皆様にも、心から歓迎を申し上げます。

大分県での国民文化祭の開催は、20年ぶり2回目となります。前回の大会は、大分県の芸術文化に大きな刺激となり、大会終了後も様々に根付き、大きく育ってまいりました。20回を迎えた別府アルゲリッチ音楽祭をはじめ、大分アジア彫刻展などの歴史を重ねた芸術祭に加え、近年では、別府混浴温泉世界、竹田アートカルチャーなど新しいアートの取組も活発になり、平成27年には、これらの発信拠点として大分県立美術館がオープンするなど、大分の芸術文化は新たなステージを迎えております。

こうした中開催される今回の大会では、伝統文化と現代アート、和の芸術と洋の文化など、異なる分野の芸術文化の出会いが、新たな輝きや次なる展開を生み出すことを期待しています。

さらに、今回は、障がいのある方もない方もともに楽しむことができるよう、全国障害者芸術・文化祭を同時に開催いたします。障がい者

の皆様にも芸術文化活動を通じて存分に自己表現をしていただき、また、そこに光をあてて多くの皆様にその素晴らしさを知っていただき、自立と社会参加を促進する機会といたします。

こうしたことから、今回の大会テーマを「おおいた^{だいぢやかい}大茶会」と致しました。障がいのある方もない方も、子どもからお年寄りまで誰もが参加し、そして楽しんでいただきたいと願っています。また、県内の全市町村が参加し、各地の芸術文化を披露していただくことにしています。様々な芸術文化が街にあふれ道にくり出し、交流と出会いがたくさん生まれることを期待しております。

このあと披露されるステージ「ヨロコビ・ムカエル?」は、大分県佐伯市出身の芥川賞作家小野正嗣さんが脚本を手がけ、同じく大分市出身の気鋭の振付家穴井豪さんが、公募メンバーを含む300人を超える県民の皆さんと一緒に一から作り上げた作品であります。新しいものを拒まず、受け入れ、歓待するといった大分の県民性を表す舞台であり、異なるジャンルの共演、映像の活用など、皆でチャレンジを重ねて作り上げてきた舞台でもあります。まずは文化祭のオープニングを飾るこの舞台を是非ともお楽しみいただきたいと思います。

結びに、大会の開催にあたりまして格別のご支援をいただいた文部科学大臣、厚生労働大臣そしてすべての関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。開会の挨拶とします。

歓迎の辞



大分県議会議長

井上伸史

このたびの災害に対し、被災された方々、亡くなられた方々にまずはお悔やみ申し上げる次第でございます。

「第33回国民文化祭・おおいた2018」「第18回全国障害者芸術・文化祭おおいた大会」の開催にあたり、地元の県議会を代表いたしまして、一言、歓迎の挨拶を申し上げます。

皇太子殿下、同妃殿下の御臨席を仰ぎ、国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭がここ大分県で盛大に開催されますことは、県民にとって大きな喜びであり、全国各地からお越しいただいた多くの皆様方を心から歓迎いたします。また、本日、御参会の皆様には、日頃から、文化活動の推進に多大な御尽力を賜っておりますことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

芸術文化は、人の心を豊かにし、創造性と感性を育むとともに、人々の感情に働きかけ、ゆとりや癒やし、感動を与えてくれます。生活に潤いをもたらす芸術文化を育み伝えていくことは、創造的で活力あふれる地域社会を構築する上で、極めて重要なことであります。

このため、本県では平成28年3月に「大分県文化創造戦略」を策定し、芸術文化活動や伝統文化を観光や地域振興へ活用することで、

「創造県おおいた」を実現するとともに、芸術文化の振興による地方創生の推進を目指しています。このように、芸術や文化がより一層豊かに花開くことが期待されている本県において、全国各地で芸術文化活動に携わる皆様が一堂に会し、世代や地域を越えて交流されますことは、誠に意義深く、各地域で受け継がれた多様で個性豊かな芸術文化の新たな創造を促す契機となりますことを大いに期待しております。

今回の大会は、「おおいた^{だいちやかい}大茶会」のテーマのもと、164の事業が県内の全市町村で繰り広げられます。伝統文化や現代アートなど、各地域の芸術文化を実感、体感し、楽しんでいただきたいと思います。

また、ここ大分県は日本一のおんせん県であります。別府、湯布院をはじめとする温泉や、今年開山1300年の節目を迎えた国東半島の六郷満山などの歴史遺産や文化、さらに、関あじ・関さばやおおいた豊後牛などの食の魅力も満載です。ぜひ、この機会に大分県の魅力を堪能していただければ幸いです。

終わりに、本大会の成功並びに本日お集まりの皆様のお健勝と御活躍を心から祈念申し上げます。私の歓迎の挨拶とさせていただきます。